



しなの “信濃教育”誕生の恩人 **浅岡 一** (1851~1926)



“信濃教育”で知られ、全国教育界の模範となった長野県教育。その基礎形成に貢献した2人の人物は二本松出身者の実の兄弟で、今回紹介する浅岡一と、4歳年上の渡辺敏であり、長野県教育界の恩人として顕彰されています。

浅岡一は嘉永4年(1851年)1月8日、二本松藩士で武器奉行を務める浅岡段介の五男として出生。戊辰戦争に際して父と長兄が戦死し、母方の実家である渡辺家でも当主が戦死をするという悲運が襲いました。そこで、浅岡家は末弟の一が、渡辺家は兄の敏が継ぐことになったのです。一は15歳の時に藩から招かれて御前講義をするほどの秀才であったといえます。

戊辰戦争の爪痕が消えない明治5年(1872年)に上京し、信州松本出身の辻新次に身を寄せ、勉学に励みました。文部省勤務を振り出しに、広島師範などに勤めるかわらフランス語を修得し、明治19年(1886年)9月に長野県師範学校長として赴任、同県学務課長をも兼任することになりました。

同年創設された信濃教育会の初代会長に推され、以後、長野県教育界の中心的人物として大きな影響力を発揮することになります。

一は師範教育の目的を「順良・信愛・威重」気質の養成とし、全寮制の導入や子弟間に人格愛情を養う精神主義教育の確立など、教育の充実を図り、教育尊重の気風を植えつけることで、因襲を打破し、合理主義を浸透させることに尽力しました。

校長よりも高い給料での人材登用や校舎新築、附属小学校や幼稚園の開設を進め、女子教員養成の道も開きました。さらに、当時としては画期的な修学旅行を実施し、憲法発布の大典には教職員・生徒を引率し上京するなど、浅岡学風を浸透させたのです。

人柄は、温かい人情味にあふれていたといえます。教育に対しては部下を信じ、部下に間違いがあれば自らが責任を負い、極めて寛大であり、特に青年の心を引き寄せることに長じていました。

晩年は東京に在住し、大正15年(1926年)9月25日、75歳をもって逝去しました。

長野県は、全国一の教育県に育て上げる基礎を築いた功労者として、信州大学教育学部構内に頌徳碑を建立し、その業績を讃えました。



二本松ふるさと人物史
二本松市ウェブサイト

二本松警察署からのお知らせ

犯罪発生状況(令和6年1月)

	二本松地区	安達地区	岩代地区	東和地区	不明等	合計	前年対比
侵入盗							
空き巣							
出店荒し							
その他							-1
非侵入盗		2				2	1
万引き							
車上ねらい							
その他							-1
自転車盗							-3
器物損壊							
住居侵入							
その他	2		1			3	-3
合計	2	2	1			5	-7
前年対比	-5	-2	1			-1	-7



地域で子供の見守りを!!
日常生活の中、気軽にできる「ながら見守り」活動の協力をお願いします。



～ 福島県警察スマートフォンアプリ ～

今すぐ! POLICEアプリふくしまのインストールをお願いします。

みなさんが被害に遭わないための最新機能を搭載しています!

インストールはこちら

POLICE アプリふくしま

App Store | Google Play

二本松警察署電話 23-1212